Palmela

について

パルメラ
アラビダ山脈（Serra da
Arrábida）の麓に位置するこの町は、何世紀にもわたり、イベリア半島をわたってきたさまざまな民族をお勧めきつけてきました。

町の名は古代ローマ時代に起源があると言われ、ことにパルマ（Palma）という名の執政官によるものと考えられています。一方、アラブ人によって町の一番高い地点に城が築かれました。ここからは、サド川（Rio Sado）とテージョ川（Rio
Tejo）の間に広がるこの地域一帯を、はるかセーラ・デ・シントラ（Serra de Sintra）まで一望のもとに収めることができます。

このことが、当時この地が戦略上の要所であったことを物語ると同時に、今日では最高の眺望が望める場所の1つであることの証明となっています。

パルメラ（Palmela）は、12世紀にポルトガル初代国王アフォンソ・エンリケス（Afonso Henriques）によってムーア人の手から奪回されました。そしてこのとき貢献のあったサンティアゴ騎士団に、開拓と守備のためこの土地が与えられました。15世紀には城の内部に修道院が設立され、それが宗教騎士団の本部となりました。現在ここは、ポザーダ（Pousada）となっています。

パルメラはまた、重要なワイン生産地でもあります。この土地からはすばらしく質の高いテーブルワインと、セトゥーバル（Setúbal）の モスカテール（Moscatel）として知られる酒精強化ワインが生まれています。これが町でもひときわ盛大な祭りの起源となり、毎年9月初旬にはブドウの収穫祭が開催されています。この祭りでは、行列やさまざまなショー、牛追いが行われます。

2013 ポルトガル観光局 無断転載・転用禁止
info@visitportugal.com